

－発表要旨・論文－

## 一般演題（1）

### 1. 内視鏡スコープ修理件数低減への取組み

医療法人沖縄徳洲会中部徳洲会病院

○新井 孝 洲鎌 勝也 運天 政秀 仲地 勝弘  
仲間 直崇 長田 祐輝 田邊 昭子 大浦 学

#### 【はじめに】

当院では内視鏡本数40本（上部29本・下部11本）で、年間検査総数15,297件（上部12,213件・下部2,724件・特殊検査360件H28年度）を施行しているが、H27年度で¥6,125,860、H28年度で¥9,245,710と修理金額の高騰が課題であった。H29年4月より臨床工学技士（以下CE）が当院内視鏡センターに常駐して以降、メーカー協力の元、修理件数の低減に取組み一定の改善がみられたため報告する。

#### 【目的】

医師・看護師を含めた内視鏡センタースタッフ全員に修理金額高騰とスコープの破損状況を周知することで、スコープ取扱いを改善し、修理件数低減を図る。

#### 【対象・方法】

H28年度の修理状況をユーザー依頼の修理とメーカー指摘の修理に分けて解析。そのうちスコープ取扱い不備で生じた修理に焦点をあてて、H29年度に5回、解析結果の勉強会及び内視鏡スコープの取扱い講習会をCEとメーカーが協力し、医師・看護師を含めた内視鏡センタースタッフ全員を対象におこなった。指導前（H28年度）と指導後（H29年度）における修理件数及び内容を比較検討した。

#### 【結果・考察】

ユーザーから依頼した修理件数は12件（H28年）から2件（H29年）、メーカーから指摘のあった修理件数も66件（H28年）から14件（H29年）と減少した。特に先端部と湾曲部破損件数の減少がそれぞれ16件から2件、12件から1件と著明であった。勉強会において修理金額・件数をスタッフ全員で共有することで内視鏡スコープ取扱い改善への意識付けをしたうえで、講習会にて改善点を指導したことでスコープ取扱いの意識を高めたことが修理件数軽減につながったと考えられる。これに加えCEが使用前・使用後点検をおこなうようになったこと、スコープ使用後毎に漏水検査をおこなうようになったことで修理

箇所の早期発見が増えたことも相乗効果をもたらしたと考えられる。その結果、H29年度では修理金額が¥2,147,770に抑えることができた。前年度と比較してもH28年度を100%とすると23.2%まで減少した。

### 【結論】

当院においてはCEが内視鏡センターに常駐し、勉強・講習会及びスコープ点検を主導することで内視鏡スコープ修理件数低減につながった可能性が高いと考えられた。

【連絡先：〒901-2393 沖縄県中頭郡北中城村アワセ土地区画整理事業地内2街区1番

(泡瀬ゴルフ場跡地) TEL：098-932-1110】

◎ユーザーから依頼した修理件数

H28年度		件数	H29年度		件数
	取扱い不備	66		取扱い不備	14
	劣化	52		劣化	17
	不明	7		不明	
	<b>総計</b>	<b>125</b>		<b>総計</b>	<b>31</b>

◎メーカーから指摘のあった取り扱い不備による修理件数内訳

	アングルダウン	コネクタ部損傷	先端部破損	湾曲部破損	挿入部破損
H28年度	11	5	16	12	7
H29年度	4		2	1	4
<b>総計</b>	<b>16</b>	<b>5</b>	<b>18</b>	<b>13</b>	<b>11</b>

操作部損傷	液漏れ・コネクタ水被り・腐食	送気送水不良	劣化・消耗	総計
4	9	2	66	132
4	1		17	33
8	10	2	64	147

## 2. 内視鏡スコープの清浄化に向けた取り組み

一般社団法人 宗像医師会病院 臨床工学科

○今永 純司、古賀 大貴、川添 久司

松尾 卓也、佐々木 篤、根岸 光彦